

令和2年度 小平市立 小平第二中学校 学校評価報告書

学校教育目標	平和で民主的な国家・社会の形成者として、世界に貢献できる有為な日本国民の育成を目指し、次のような人間像を教育目標とする。 ◎自ら考え、正しく判断し積極的に実践する人間 ◎明るく健康で情操豊かな人間 ◎社会の一員として協力し、向上につとめる人間 ◎相手の人格や立場を尊重する人間
---------------	--

目指す学校像(ビジョン)	【目指す学校像】 「自分に自信をつける。」 生徒・教職員・保護者・地域住民が誇れる「二中プライド」の確立する。 【目指す児童・生徒像】 【目指す教師像】
---------------------	--

前年度までの学校経営上の成果と課題	・小グループ活動を取り入れた授業改善の研究を4年間実施し、意欲的に取り組む教員が増え、その結果生徒の学力も向上しつつある。教科を越えて教員の相互授業参観を積極的に行い、生徒の活動を取り入れた授業をさらに深めていくことが課題である。 ・挨拶がとてよくなり、それに伴って、生活態度や授業規律も向上している。さらに、生徒が自主的に学校の環境改善を行っていくよう、主体的な生徒の活動を進めていくことが課題である。
--------------------------	---

	具体的方策	年間評価		関係者評価	課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		
学力向上	①全校での男女市松模様の統一した座席配置 ②全教科で4人組の学びあい活動の実施 ③教室環境を全校で統一した学習環境 ④全教員の年間1回の研究授業の実施 ⑤年間9回の学年協議会の充実 ⑥年間3回の講師を招聘した校内研修会の実施 ⑦二中スタンダードを作成し家庭学習の定着 ⑧放課後学習教室の履修を推進する	4	/	コロナ禍で、学校経営協議会の実施回数が3回、短時間であったため、十分な評価をいただくことができなかった。しかし、今年度は小中連携の視点での学校評価を作成することができた。	「令和2年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」が中止になったため、成果目標の到達度が数値化できなかった。そのため十分な成果をあげられているかが不明である。 次年度以降は、質問紙調査を分析し、成果のある教育活動を展開していきたい。
キャリア教育	①週3日朝8:00～8:15のあいさつ運動の実施 ②全教員が顧問となった部活動の実施 ③生徒会・委員会活動の充実 ④生徒の誕生日を祝う ⑤特別の教科道徳の実施 ⑥生徒主体の学校行事の推進 ⑦地域行事・青少対行事等への参加 ⑧災害時の中学生の地域での役割意識の醸成	4	2	朝のあいさつ運動では、通行している方から感謝の言葉をいただいたり、毎週掲示している校門掲示板の俳句や短歌を製本して寄贈していただくなどの反響があった。学校経営協議会では、あいさつ運動の様子をビデオで撮影し関係小学校と交流する提案があり、次年度から実施する予定である。	課題は、左記の⑧にある災害時の中学生の地域での役割意識の醸成が不十分であった。それ以外の具体的な方策については、次年度も継続して実施していく。キャリア教育の一環として、地域人としてどのように生きるかについて、次年度以降、毎月の避難訓練、特別の教科 道徳等の時間で計画的に指導を行っていく。
健全育成(いじめ防止)	①全教科での授業規律の確立 ②朝礼など効率的な集団行動を指導 ③小中連携の日の取組を充実 ④家庭・地域連携のためのHP等の充実 ⑤コミュニティ・スクール分科会の活動との連携 ⑥関係機関との迅速な連携 ⑦いじめ防止校内委員会の充実 ⑧朝読書(AM8:20～)の徹底	4	4	中学校の放課後の活動で小学生が関心のある部活動では、学校経営協議会長ならび副会長も参加し、学校行事としての始めて部活動体験を実施した。関係小学校から6年生が全員が授業として本校の部活に参加する取組について好評を得た。次年度さらに充実していく方針である。	課題は、左記の⑤にあるコミュニティ・スクール分科会の活動との連携が不十分であったことである。それ以外の具体的な方策については、次年度も継続して実施していく。 今年度は、小中連携型のコミュニティ・スクールの2年目であった。次年度に向けて内容の充実を図る。そのためには、事務局会議で事前に十分に討議をした上での提案が必要となる。計画的に準備を行っていく。
働き方改善・	①学校経営協議会による学校行事の実施 ②ペーパーレス化 ③会議の回数、時間の縮小化 ④職員レクリエーションの実施 ⑤起案制度の徹底 ⑥複数顧問制による部活指導の軽減 ⑦統一した様式による業務の効率化 ⑧SSS・学校支援コーディネーターの活用	4	3	今年度より学校経営協議会による学校行事の実施のために、学校経営協議会では3つの分科会で別れて協議の時間を設定した。次年度はこの分科会を中心に、学校経営協議会発の取組を行うことで教育の質の向上と業務改善を推進する方向である。	課題は、左記の④にある職員レクリエーションの実施が不十分であったことである。それ以外の具体的な方策については、次年度も継続して実施していく。 職員が活力ある仕事をするためには、職員集団が元気であり、人の和が大切である。年休取得率は例年どおりとなった。この現状からさらに、次年度は年休取得率の向上を図るよう業務改善に推進していく。